

マネージメント情報

2023年9月



この記事は、機関誌や日常の出来事の中からわれわれが注目した話題を皆様に提供するものです。
ご質問、ご要望などなんでもお寄せくだされば、今後テーマとして取り上げたいと思います。

壱岐島で、「生まれた子牛が乳を飲まない」との往診依頼があったときにまず行うのは「浣腸」でした。病名は胎便停滞（たいべんていたい）です。

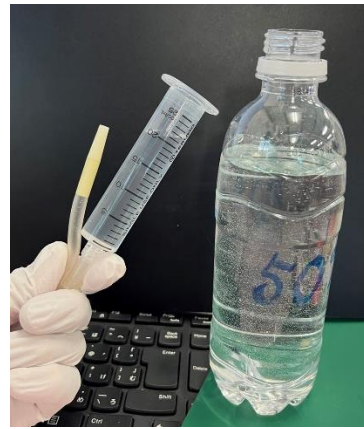
壱岐ではほとんどが母子同居であり、母乳で育ちます。ですから新生子牛は初乳を自力で飲む必要があり、飲まないとなると一大事です。農家の方は一生懸命になって子牛に乳首を吸わせようとします。乳首に砂糖や蜂蜜を塗ったり・・・しかし母牛（特に初産）には子牛を嫌がって吸わせたがらない牛もいます。そのような母牛には、・・・ある種拘束をすることもありました。設備的なものを考案したこともあります（母牛ゲート 1.2 下記ご参考まで）。

一方で、子牛の不調で飲まないこともあります。難産で不調のこともあるでしょうし、羊水を吸引してしまったこともあるかもしれません。そのような原因が分かって分らなからうが、とりあえず行う処置内容が浣腸です。浣腸が奏功する（その場で胎便が出る）と、子牛はスッキリした表情になり、すぐに乳首に吸い付くことを度々目撃しました。便通が滞ることが気を減らせることは薄々知ってはいたものの、“劇的反応”です。で、ここからは私の思考ですが、であれば、生まれた子牛全部に“とりあえず浣腸”を行ってみてはどうでしょう・・・馬の世界では、オスは骨盤が狭いので、“とりあえず浣腸”するようです。ですから悪いことにはならないでしょう・・・むしろ初乳の飲みが増える可能性もありそうです。

では、浣腸の方法ですが、物理的刺激と化学的（薬物）刺激があります。物理的にするときには体温計とか、先の丸いマドラーのような棒を使いますが、直腸を傷をつけないか心配になります。私がやっていた方法は50%グリセリン（水で倍にする）を使う方法です。



かの有名な「イチヂク浣腸」も50%グリセリンです。私のおすすめは、補液管の先を抜き取り、10 cmカットして、特別な先のシリンジに取り付けます（カテールチップ）。これを直腸内にゆっくり入れ、薬液は結構強めに（遠くまで）とどけます。



ということで、へその消毒と、浣腸は、とりあえず行う方向で、、、

（グリセリン 500 ml : 40 頭分 1,600 円 / カテールチップシリンジ 25 ml : 120 円）

先日酪農学園大学で行われた勉強会で、宮崎 NOSAI の上松瑞穂獣医師は、生まれて 10 日頃の子牛に、成牛（親子関係は不問）の第一胃液を 10 ml 1 回移植（注射器で子牛の口から飲ませる）すると、見違えるほど子牛の体調が良くなると紹介してくれました。



母牛ゲート1



母牛ゲート2